

# タイミング

Timely Behaviour

Sogo OKAMURA

President, Tokyo Denki University

President, IATSS

岡村總吾

東京電機大学長

本学会会長

私事にわたって恐縮であるが、私は丁度25年前に自動車教習所に通って運転免許を取った。当時既に四十代の後半で、しかもかなり忙しい毎日を送っていたので、教習所に通うのも時々中断する始末で、免許を取るのに随分苦労した。御承知のように、自動車教習所にはいくつかの教程があって、指導員がその教程について合格と判定すると、所定のところに印を押してくれるが、不合格と判定すると、同じ教程を何回でも繰り返させられる。途中で出張等の為休んでしまうとなかなか合格しないので、運転の上手な大学院の学生等において日曜日に練習してから教習所へ行くようなこともした。幸にして兼務で研究室長を勤めていた郵政省電波研究所が国分寺にあって、その敷地の一部に私設の自動車練習所があり、私は免許を取る前から、親戚の自動車を譲られていたので、休日の日に自宅から自分の車で電波研究所まで送って貰い、一生懸命練習した。

ところがこんなに準備をしても不合格になることがある。最初は指導員によって、採点の辛い人と甘い人とがあって、辛い指導員に当たるとなかなか合格できないのではないかと思っていた。しかし良く考えてみると、必ずしも判定の甘い辛いということだけではなく、ある指導員に当たると比較的すらすらと運転できるのに、ある指導員に当たると、自分でも嫌になるくらい、へまばかりやることがある。これは指導のタイミングによることのようなのである。

私などのように反射神経のいぶくなっている初心者は、すべての動作に時間がかかるから、少し早めに適当なアドバイスをして貰わなければならない。例えば、信号機の無い交差点にさしかかった時、横から他の車が進行してくる。自分の方がちょっと早く交差点に入ると思うが、まだ新米だからと思い遠慮してブレーキを踏むと、途端に指導員が「なんで止まろうとするの、後の車が迷惑するよ」と怒鳴るから、慌ててブレーキから足を離してアクセルを踏む。ところが、横から来た車は、相手が遠慮して止まってくれそうなので、速度を上げて通り抜けようとしたため、衝突しそうになって両方とも急ブレーキをかけることになってしまう。ところがタイミングのよい指示を与える指導員の場合には、相手の腕前をみて、早めに、「大丈夫、まっすぐ行きなさい」とか、「止まった方が良いよ」とか、ちょっと注意してくれるため、すらすらと通れてしまう。

学生の教育や研修生の指導にも同じようなことがあるような気がする。特に外国からきた研修生のような場合には、タイミングのよい指導が非常に大切ではなからうか。

これは教育や研修にかぎったことではなく、政治や外交には大変重要な事柄ではないかと思う。とかく我国の社会では、成果を褒めるよりも、失敗を科める傾向にあるため、周囲の様子に気を配ったり、大勢の人のコンセンサスを得ることに気を取られて、タイミングを失することが多いような気がする。今後注意すべきことと思う。

原稿受理 1990年10月1日